

当センター作業療法の試み:ポータブルスプリングバランサーを用いた上肢機能訓練
Motor skill rehabilitation using portable spring balancer (PSB) for adults with diffuse brain injury

吉池 佳代、丹羽 志保、和田 哲也、横林 優、奥村 歩、篠田 淳
木沢記念病院 中部療護センター

Kayo Yoshiike, Siho Niwa, Tetsuya Wada, Masaru Makibayashi, Ayumi Okumura, Jun Shinoda
ChubuMedical Center for Prolonged Traumatic Brain Dysfunction, Kizawa Memorial Hospital

遷延性意識障害を呈している患者に対する作業療法(以下OT)が未成熟な分野であることは意識障害学会に発表されるOTに関する演題数の少なさからも推察できる。その理由のひとつとしてOTは主に作業活動を通じて生活に必要な機能を維持・改善する療法であることが挙げられる。

当センターは自動車事故により脳損傷を生じ、重度の精神神経障害が継続する状態にあり、治療及び常時の介護を必要とする方を対象とした入院施設である。そのため、既存OTのパラダイムに基づきOTを実施することは困難であり、当院OT開設以来、遷延性意識障害に対するOTを模索してきた。今回はその取り組みの一部を紹介する。

遷延性意識障害患者において、稀にもしくは一瞬だけ動作した後(上肢の挙上など)、動作が断絶したり、動作の継続が困難なケースが見受けられる。このような症状は多種多様な要因が考えられるが、そのひとつとして発動性の低下や注意の持続性欠如などの精神機能の低下が大きく影響していると考えられてきた。この現象の介入に際し、我々はその他の要因として筋出力の問題や疲労が関与していると考え、上肢筋力を補う補装具(スプリングバランサー、ハニーインターナショナル社製)を用いることで筋出力と疲労を考慮した上肢機能訓練を実施した。その結果、動作の実施頻度、速度、持続性が改善した症例を経験した。また、その考えに基づき数例の患者に同様の方法を適応して実施しているが好結果を得ているところである。

現時点では本訓練法の効果を客観的に指し示せる段階ではないが、学会当日は我々の試行について実際の映像を交えながら説明させていただく。